

＜生涯のパートナーとの出会い＞

所：大学卒業後、サラリーマンになられて4年間お勤めになりました。その間もアマチュアとしてお母様をパートナーに・・・

幸：なったこともあります。



所：他の方をパートナーにされて、競技の方に出てらっしゃった頃にお父様のお弟子さんだった多美子先生と出会われたと？

幸：その頃は彼女とは顔を合わせることはなかったですね、何かの

時に顔を合わせたことはありますけど。僕は他の人と組んでいました。

所：多美子先生も違う人と？

多：わたしも違うリーダーと踊っていました。たまたま同じ時期に、私のリーダーと、こちら（幸雄先生）のパートナーもやめられて、お互いダンスをする相手がいなくなっちゃったものですから、それで二人で組むようになりました。

所：組んでみていかがでしたか？お互いにこの人とは合いそうだと思いますか？

多：そんなことはないです。そのころはまだ。

幸：一生懸命やることばかりで。

所：やりやすい、踊りやすいということとは？

多：踊りにくかったです！（笑）

幸：（笑）

多：こっち（幸雄先生）もそう思っていたと思う。

所：でも、それからお二人で競技会に出られるようになって、その頃ですか？多美子先生が幸雄先生のお尻の形の良さに惚れられたというのは？

2：（笑）

多：あー、あの頃は、今よりはずーっと格好良かったです。お尻の形が。（笑）

幸：（笑）

多：若かったからね。（笑）

＜アマチュア時代の思い出＞

所：アマチュア時代に、お二人にとって忘れられない競技会があったそうですね。

幸：その頃は、まだこの地域は西部総局に含まれていて（※現在は中部総局）西部の所属という形で、アマチュアの全日本戦に出場しました。

その時ですね。日本のダンス界を変えたという有名なレン・スクリプナー先生の単独審査で、当時のサンケイ戦といわれていた日本武道館でのアマチュア戦で初めて入賞しました。

多：まだ私がここへ練習に来て2年もたっていないくらいだから、余計に嬉しかったです。

所：その時は、そこでどんどん勝ち進んで行かれたわけですね。

多：1回で落ちると思ったら「残ってる！残ってる！」と言われて、だんだん嬉しくなっていて。その嬉しくなるということできっと踊りも良くなるんでしょね。そのおかげで入賞できました。



昭和41年 サンケイ戦初出場で5位入賞

所：最後の発表を聞かれた時はどんなお気持ちでしたか？

幸：それはびっくりしましたね。

多：ただ嬉しいだけでした。

所：そしてその秋の全日本でも、上位入賞されましたね。

幸：九州の全日本戦ですね。3位に入りました。

それでまたおもしろい話がありましてね。その後に大阪府立体育館で大会があったのですが、その時は九州の全日本で自分達より成績が上だった2組が出場しなかったんです。それで大阪の大会に「さあ絶対に僕達は優勝するぞ！」と出て行ったのが……。なんのなんの、それが5位、がっかりしました。（笑）

所：そういうこともあるんですね。

多：決勝には残ったんだけど5位でしたね。

幸：そういうこともありましたね。悔ってはいけないということですね。

＜プロ転向と結婚＞

所：その後、幸雄先生はお仕事も辞められて、お父様のお勧めもあって、プロになられたのですね。

幸：プロになるきっかけは勤めていた会社の倒産です。他に行くところもなかったんですが、そろそろプロにでもなったらと勧められ、会社勤めを辞め、うちでダンスの勉強を始め、そこでプロになりました。

所：プロに転向されて、お二人はご結婚ということになるわけですが、ご結婚されてからと、ご結婚される前とダンスは変わるものですか？

多：それは変わらないと思います。でもダンスに対しては、この人はすごく厳しかったですから、人が変わったみたい。（笑）

所：もうダンス、ダンス、ダンス。ダンス漬けという新婚時代でいらっしゃいましたか？

多：映画なんて見に行かなかったし。

所：デートもなし？

幸：そうです。